

地域情報（県別）

【香川】国際学会での発表や著名医師によるセミナーも開催-藤川達也・三豊総合病院内科部長に聞く◆Vol.2

2020年9月25日（金）配信 m3.com地域版

地方の総合病院では珍しい研修を行っている三豊総合病院（観音寺市）。活動を主動する内科部長の藤川達也氏は英語論文執筆の指導だけではなく、研修医に国際学会で発表する機会を与え、さらに著名な医師を外部から招いての指導も定期的に行っている。今回は後者二つの活動について、その希少性や具体的な内容を紹介する。（2020年7月28日にインタビュー、計3回連載の2回目）

▼第1回はこちら

▼第3回はこちら

——三豊総合病院では研修医に英語論文の書き方を教えているほか、国際学会への参加と発表の機会も与えていると聞きます。その内容を教えていただけますか。

国際学会への参加・発表も英語論文指導と同様、私が指導医になった2014年に発案し、その年から年に1度のペースで実施しています。過去に参加した学会は二つで、どちらも総合内科系。具体的には「SGIM（Society of General Internal Medicine）」、「SHM（Society of Hospital Medicine）」と呼ばれるもので、ざっくり言うと、前者は日本のプライマリ・ケア連合学会の海外版、後者は日本の病院総合診療医学会の海外版です。

なぜこの二つかという、初期研修医でも発表しやすいからです。循環器学会や糖尿病学会など他の内科の国際学会では症例発表に当たってある程度の患者の数が必要ですが、この二つの学会は患者一人の症例でもいいんですね。例えば初期研修医が救急外来で出会った患者でも独自性などがあれば発表できるので、相性がいいのです。

国際学会に参加する際は少なくとも研修医1人が必ず発表するようにしています。演題とその概要を二つ三つ学会に送って審査してもらい、通過すれば発表できるわけですが、場合によっては全て通ることがあるので、そのときは研修医の負担を減らすために私も発表します。



内科部長の藤川達也氏（藤川氏提供）

——英語論文指導と同様、こうした取り組みも珍しいのではないのでしょうか。英語で発表するとなると当然、準備も必要になってきますよね。

珍しいと思います。というのも、現地で日本人と会うことが少ないんですね。大学病院の先生方とお会いすることはありますが、地方の総合病院の医師が来ていることはまれで、中でも初期研修医を連れてくるチームに出会ったことはありません。専攻医がサブスペシャリティ領域の学会で発表しているのはときどき聞きますが、初期研修医が国際学会で発表した例はほとんど聞いたことがないので、希少だと言えるのではないのでしょうか。

一方で、準備は必要です。当院の場合、演題に沿った原稿を研修医が英語で書き、私の添削を終えた後に口頭での練習を重ねます。当院では週に1回、外国人講師に来てもらって英会話を教わっているので、その場で発表の練習をし

て講師に感想を述べてもらったり、想定問答に付き合ってもらったりもしています。過去にはオンライン英会話のサービスを利用して同じことをやったこともありました。

——さらに、同院では著名な医師を外部から招いて指導してもらっているとのこと。これも具体的にお聞かせください。

著名な医師、分かりやすく言えばNHKの情報番組「総合診療医ドクターG」に出演するような先生方をお呼びして、座学と実技指導を行ってもらっています。座学ではまさに同番組のような症例検討をパワーポイントなどを使いながら研修医向けに展開していただき、実技指導では当院の患者さんに了承を得、講師の先生が研修医たちと一緒に回診して「この患者さんにはこんな所見が取れるからこんなことに注意するといよいよ」などとアドバイスしてくれます。

外部医師によるセミナーは2、3カ月に1度のペースで行っていて、今までに総合診療医の徳田安春先生、長谷川修先生、感染症が専門の岩田健太郎先生、高山義浩先生、青木眞先生、救急医療に尽力されてきた坂本壮先生などにご協力いただきました。また、日本で国際人材の育成に取り組んでいるジョエル・ブランチ先生にも実技指導と研修医の英語力向上を兼ねて3、4回来ていただきました。

外部講師によるセミナーには、人材交流の面で当院と関係の深い香川大学や岡山大学の医学生も無料で招待していて、意識の高い生徒は参加してくれます。私の気持ちとしては毎月開催したいのですが、経費がある程度かかる関係上、今のところはこのくらいが精一杯、というところ です。



医師の岩田健太郎氏を招いての講習会（藤川氏提供）

——著名医師によるセミナーは大きな病院ではやっていそうな印象がありますが、地方の総合病院では珍しいのでしょうか。

そうですね。都会の大きな研修病院、人気の研修病院では頻繁にやっているところもあると思います。聖路加国際病院や亀田総合病院などは活発にやられている印象です。その一方、地方ではそう多くはないのではないのでしょうか。「中国・四国地方の総合病院」という条件を加えれば当院は高頻度で行っている方だと思います。

この活動も私が発案し、主動しているものですが、まず単純に私が先生方の話を聞いていて楽しいんですよね。医療の教科書を書いたり、各地で講演されていたりするような先生方はやはりレクチャーがうまい。私自身、この活動を始める前から高松市や岡山市などで開かれる講演によく行って、「こんな面白い話をうちの研修医にも聞かせてあげられないか」と思ったことがアイデアの発端です。



外部講師・平島修医師による模擬診療（藤川氏提供）

◆藤川 達也（ふじかわ・たつや）氏

1998年岡山大学医学部卒。同大大学院を修了後、米国ハーバード大学医学部の教育病院ベス・イスラエル・デューコネス・メディカルセンターで2年間、基礎研究に従事。帰国後、備前病院や清恵会病院などを経て、2012年に三豊総合病院に勤務。2014年から指導医を担当。同院内科部長。日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本糖尿病学会糖尿病専門医、日本病院総合診療医学会専門医、日本内科学会指導医。

【取材・文＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

